

序章 景観形成の考え方

第1節 景観形成の意義

景観とは？

景観は、海・山・川・田園などの自然や、建物・道路・公園等の人工物といった「形あるもの」だけでなく、これまで育まれてきた文化や歴史のあるまちのたたずまいといった都市の「印象」など、様々なもので構成されています。つまり景観は「目に映るまちの姿だけでなく、見る人が感じ取る印象も含めた幅広いもの」ということができます。

景観形成とは？

良好な景観は、人々の長い時間をかけた生活の営みや努力の積み重ねにより形成されます。

景観形成とは、これらの育まれてきた地域固有の特性を活かし、大切な財産として維持・継承し、さらに新しく創出していく一連の取り組みを指します。

本計画では、特に新しく創出するものについて、重点的に取り組みます。そのため、良好な景観の形成には、村民一人ひとりが、身の回りの景観づくりを意識して、持続的に取り組んでいくことが必要です。

景観形成の意義！

椎葉村の豊かな自然や歴史的なたたずまいを保全すること、美しく調和のとれたまちなみづくりなどの景観形成を進めることは、村民の地域に対する愛着や誇りを育むことにつながります。

また、人々の「住んでよかった、訪ねてよかった」という共感を呼び、村の魅力を向上させ、観光や交流を促進することが期待されます。

さらに、景観づくりの取り組みを通じて、コミュニティの形成や村民活動の活性化などにもつながります。

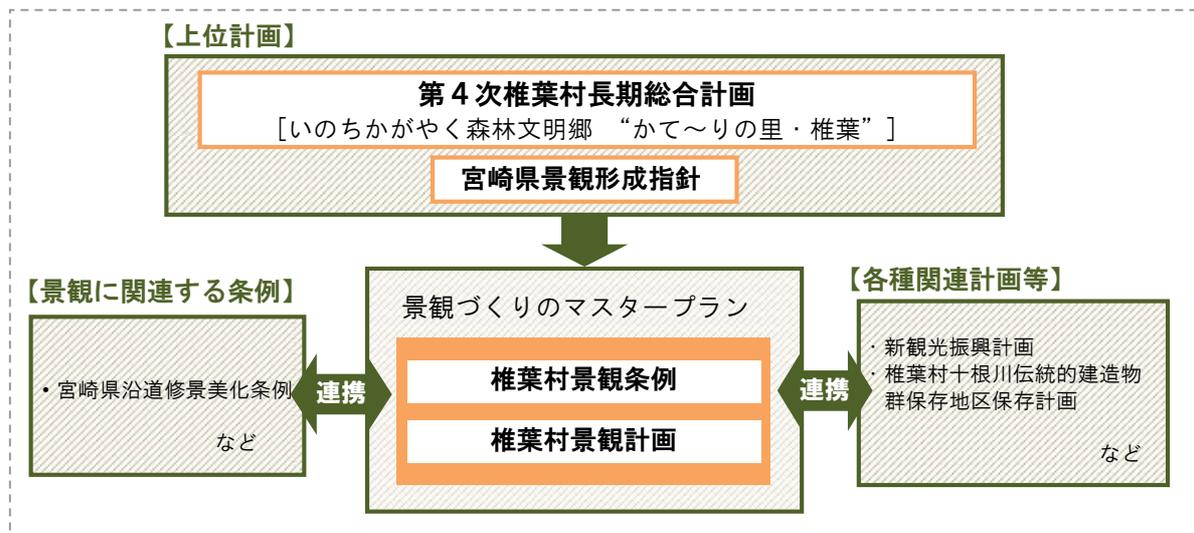


第2節 景観計画の位置付け

良好なまちなみづくりを進めるにあたって、美しく魅力的な景観づくりは、必要な条件の一つです。

椎葉村景観計画は、景観法第8条の「良好な景観の形成に関する計画」として定め、雄大な自然と歴史、文化が織り成す椎葉らしい景観を“守り”“育み”“つくり”次世代に誇れる景観を引き継ぐために、目標や方針を達成するための取り組み、景観形成基準等を定めたマスタープランです。

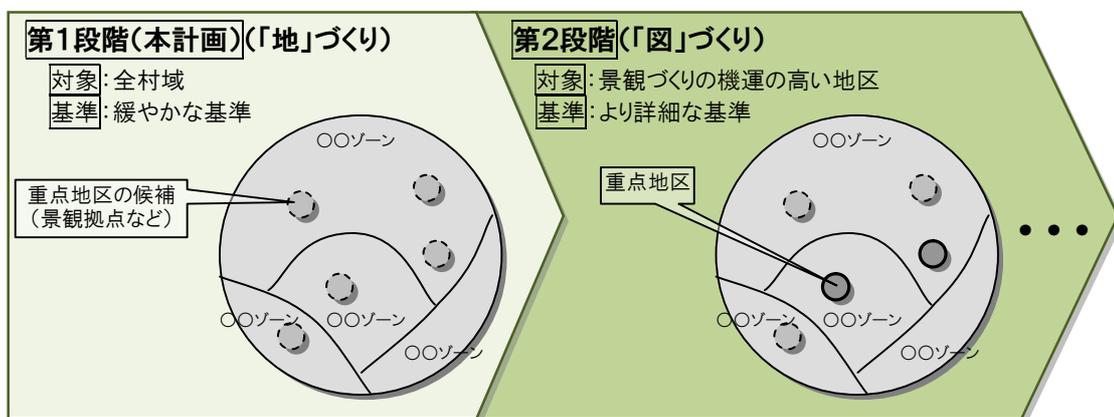
今後は、本計画に基づき、村の景観の特性を活かしつつ、更なる景観の魅力向上に資するような景観づくりを進めていきます。



▲椎葉村の景観計画の位置づけ

また、椎葉村では、これまでに村域全体に関する景観形成の取組みはなく、今回の取組みがはじめてとなります。そのため、まずは景観づくりの土台となる、良好な景観形成の必要性への理解や、望ましい景観形成のイメージ共有を主な目的に、村域全体を対象とした景観の「地」づくりのための緩やかな基準等を含む景観計画を作成します。

さらに、椎葉を代表する景観をもつ地区などで、景観づくりへの機運が高まった段階で、きめ細かな基準等を含む景観形成重点地区(仮称)への指定を検討するといった、“段階的な計画策定”を進めていくこととします。



▲段階的な計画策定のイメージ

第3節 椎葉の景観特性

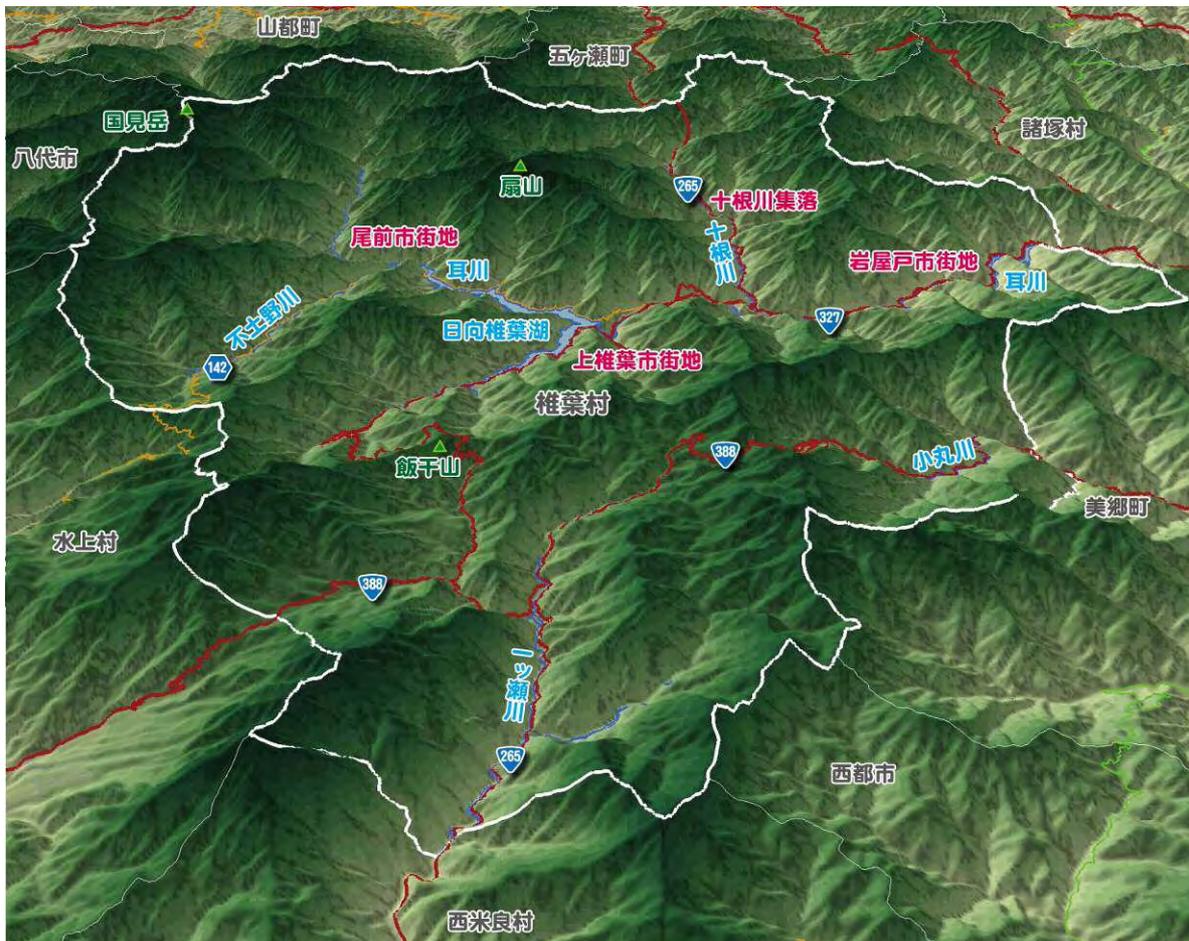
1. 椎葉の主な景観特性

村民アンケート、景観計画策定審議会等における村民意向や、現地調査の結果を踏まえて、椎葉の主な景観特性を以下のように整理しました。

(1) 椎葉の主な景観構造

村の景観特性の土台となる景観構造としては、次のものが挙げられます。

- 村の大部分を占める急峻な九州山脈の山なみ
 - その合間を縫うように走る耳川や一ツ瀬川等の河川と、国道327号やひむか神話街道等の幹線道路からなる背骨となる景観軸
 - これに付随して沿道や山の合間に点在する市街地・集落地等の景観拠点
- これに、
- 十根川集落・庄屋屋敷をはじめとした点在する歴史的資源
 - みごとな巨木、美しい渓谷 等の自然的資源
 - 鶴富屋敷・八村杉等の平家伝説にまつわる資源
 - 神楽をはじめとした祭事や焼畑等の生活文化から醸成された文化的景観
- などが加わって、椎葉らしさや景観の魅力を醸成しています。



▲主な景観構造図



(2) 椎葉村の主な景観特性

山なみ景観

○大部分を占める急峻な九州山地の八重山の景観

- ・道路や集落地からの眺めの背景として、急峻な山なみは椎葉景観のベースとなっています。
- ・秋の紅葉、初夏の新緑と、一年をとおして様々な緑の景観を見せ、生活者や訪れる人の目を楽しませています。
- ・ただし、主な視点場としての道路や集落地からの見え方に配慮した植生となっているとはいえないようです。
- ・村内のいたるところでがけ崩れの跡が目につきます。



○巨木や原生林などの豊かな緑の景観

- ・村の北端（国見岳地区）と南端（大河内原生林などの市房地区）の一部は、貴重な自然林を残す地区として九州中央山地国定公園に指定され、保全されています。
- ・このうち南部の一部については、国有林であり、九州大学の演習林となっています。
- ・自然を活かしたひえつきの里キャンプ場や矢立高原キャンプ場が立地しています。
- ・大久保のヒノキ、八村杉、松尾の大イチョウなど、巨木・銘木が点在しています。



河川・道路景観

○耳川を軸にダムや滝が特徴的な河川の景観

- ・村の中央をゆったりと流れる耳川は、村の景観骨格を形成しています。
- ・また、椎葉らしさを感じる雄大なダム湖の景観や、清流が流れる紅葉や新緑の美しい渓谷、白水の滝、けさこ滝等が点在するなど、魅力的な水辺空間が多数あります。
- ・背景の山なみと対比調和的にシンボリックに映える橋の景観も特徴的です。
- ・橋は、視界が開けるポイントでもあるため、川を中心とした山なみへの眺望が楽しめる代表的な視点場となっています。



○山間を縫うように河川と並走する道路の景観

- ・国道 327 号、265 号、388 号、ひむか神話街道等の幹線道路の沿道景観は、耳川とともに、椎葉の景観の骨格を形づくっています。
- ・日常の生活動線、および観光客の動線はこの幹線道路を基軸とすることから、椎葉の代表的な視点場であるといえます。
- ・沿道の一部では沿道の草花による緑化など、見え方への配慮もみられます。
- ・その一方で、沿道への資材の集積や、コンクリート擁壁など、道路からの見え方への配慮が求められます。



市街地・集落地景観

○沿道の市街地の山あいの集落地の景観

- ・上椎葉市街地や岩屋戸市街地、尾前市街地をはじめとした、幹線道路沿いに地域の中心的な市街地景観が点在しています。
- ・特に、岩屋戸市街地をはじめとした河川沿いの道路に張り付くように並んだまちなみが特徴的です。
- ・山間の斜面地には、石垣づくりの棚田と相俟った集落地の景観がみられます。
- ・地場産の木材や、木目風のトタンを用いた茶系色の建物が多い状況ですが、色あせた青系色のトタンの建物も多く見られます。
- ・各地域に、周辺のまちなみと不調和な倒壊寸前の空き家が見られます。



歴史・文化的景観

○鶴富屋敷などの平家伝説ゆかりの景観

- ・鶴富屋敷や椎葉巖島神社、八村杉をはじめとする、平家伝説ゆかりの景観資源があります。
- ・また、ひえつき節などの、平家伝説を今に伝える民謡、物語等が多く残されています。



○十根川伝建地区をはじめとした歴史的景観

- ・固有の文化や地形から醸成された山村集落の原風景の一つとして、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている十根川集落があります。
- ・この他、庄屋屋敷や神社、石垣など歴史ある建築物や建造物が椎葉の歴史的景観を形づいています。



○神楽・祭事や焼畑などの文化的景観

- ・村内に伝承される多数のバリエーション豊かな神楽は椎葉ならではの文化的景観といえます。
- ・また、平家祭りや釣り大会など村民に親しまれているお祭りも文化的景観としてあげられます。
- ・焼畑や棚田、稲干し、林の中に点在するホタバ等の山里の生活から醸成された景観も特徴的です。

